

# [蒜山便り] 酪農大学校 今年の新入生は 17 名

財団法人中国四国酪農大学校 教務課 村田 崇浩



平成 20 年度入学 第 44 期生蒜山郷土博物館にて

メディアは毎日のように穀物や燃料価格の高騰を告げ、グローバル化の名の下に多くの酪農家が規模の拡大か、廃業かの厳しい選択を迫られている 2008 年。しかし、そんな逆境の中でも酪農に自分の将来を見いだした若者 17 名が本校に入学してきました。

昨年度に比べれば若干人数は少ないですが、元気と明るさでは先輩たちに引けをとりません。毎日の実習にもへこたれず、寝る時間を削ってでも限られた青春を謳歌する彼らのエネルギーは、これからの畜産業界に革命をもたらしてくれるであろうと感じています。

本校は昭和 36 年に設立された全寮制の学校です。そのため学生は、在学中ほとんどの時間を仲間とともに過ごします。最初緊張気味だった寮生活も 1 ヶ月が経ち、お互いにずいぶんと打ち解けてきました。これから 2 年間、共に暮らすなかで深い関係を築いていって欲しいと思います。

学生は朝 5 時 30 分から搾乳作業が始

まり、講義、午後の定例作業がすべて終わる頃には夕方 4 時 30 分になります。それからご飯やお風呂など、身の回りのことをしたりしているとあっという間に 1 日が終わります。

一般的な学生生活に比べれば大変に思えるかもしれませんが、学生たちは残された時間を工夫して、一生懸命楽しんでいるようです。

寮の食事は美味しくてボリュームがあるので学生たちの楽しみの 1 つです。学生同士でにぎやかに食べるご飯は、家で食べるご飯とはまた違った美味しさがあるのではないのでしょうか。

寮生活では楽しさもありますが、時にはぶつかったりすることもあると思います。自分の主張だけでなく、相手の意見に耳を傾けなければならない機会が何度もあるでしょう。集団生活を通して、時に悩みながらも大きく成長していった欲しいと思います。苦楽を共にした仲間は、生涯にわたって貴重な宝物になるはずです。

2 年後には彼らも社会に出て行きます。それまでに多くの経験を積み、力を蓄えていって欲しいと思います。また酪農という仕事を後世に残し、若者が希望を持って働ける環境を作っていくことは我々社会人に課せられた責任でもあります。彼らが将来自分の選択に自信を持ち、仕事に誇りを持てるように願っています。